# 有害プランクトン情報 (令和2年度 - No. 11)

千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所・生産技術研究室 千葉県農林水産技術会議

水産総合研究センターは東京湾でプランクトン調査を行っています。プランクトンの種類や密度によっては、魚類 や二枚貝などに影響を与えるので、毎月1回有害プランクトンの出現状況をお知らせします。

〇 調査日 2月 第1回 内湾(8地点) 沖合 2/5-6 内房 (7 地点) 2/5-6

> 2月 第2回 内湾 (8地点) 2/19 内房 (2地点) 2/19

# 東京湾(内湾)

### 【有害プランクトンの出現状況】

- 2回の内湾調査でカレニア ミキモトイがみられました。(カレニア属は100 細胞/mL以上で注意報を発出 します)
  - ・2/5-6 富津沖~アクアライン南部、羽田沖~船橋沖、盤洲南部: 最高密度は盤洲南部の1.4細胞/乢
  - 富津沖、アクアライン北部、羽田沖、千葉沖:最高密度はアクアライン北部の0.4細胞/止 · 2/19

同種は水質保全課、千葉県環境研究センターの調査時にもみられており、今後の動向に注意が必要です。 (水質保全課)

- · 2/9:市川・船橋沖(10 細胞/mL 程度)、稲毛沿岸(10 細胞/mL 程度)、五井沖(10 細胞/mL 程度) (千葉県環境研究センター)
  - ・2/25 : 千葉沿岸(10 細胞/mL 程度)、袖ケ浦沖(10 細胞/mL 程度)
- シャットネラ属,シュードシャットネラ属,ヘテロシグマ属は確認されませんでした。
  - ※ 赤潮 (透明度 1.5 m 以下, pH 8.5 以上, 酸素飽和度 150 %以上) は確認されませんでした。
  - ※ シャットネラ属は 1 細胞/mL, シュードシャットネラ属は 100 細胞/mL, ヘテロシグマ属は 1,000 細胞/mL, カレニア属は 100 細胞/mL 以上で注意報を発出します。

#### 【貝毒原因プランクトンの出現状況】

- 1 麻痺性貝毒原因プランクトン
  - 確認されませんでした。
- 2 下痢性貝毒原因プランクトン
  - 2回の内湾調査でディノフィシス アキュミナータがみられました。
    - ・2/5-6 富津沖~アクアライン北部:最高密度はアクアライン南部の0.2 細胞/ml
    - ・2/19 千葉沖: 密度は 0.05 細胞/mL
  - 1回の内湾調査でディノフィシス ロツンダータがみられました。
    - ・2/19 千葉沖: 密度は 0.15 細胞/配
  - 貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

# 東京湾(内房)

## 【有害プランクトンの出現状況】

- 2回の内房調査でカレニア ミキモトイがみられました。(カレニア属は100 細胞/mL以上で注意報を発出します)
  - ・2/5-6 浦賀沖および岩井沖~富浦沖: 最高密度は富浦沖の 0.25 細胞/ 止
  - ・2/19 第2海保: 密度は0.05 細胞/mL
- シャットネラ属,シュードシャットネラ属,ヘテロシグマ属は確認されませんでした。 ※ 赤潮(透明度 1.5 m以下,pH 8.5 以上,酸素飽和度 150 %以上)は確認されませんでした。

#### 【貝毒原因プランクトンの出現状況】

- 1 麻痺性貝毒原因プランクトン
  - ○確認されませんでした。
- 2 下痢性貝毒原因プランクトン
  - ○確認されませんでした。
  - 貝毒の被害情報はいずれの日もありませんでした。

(貝毒情報は千葉県農林水産部水産局漁業資源課のホームページに掲載)

# ○ 各海域で見られたプランクトンの優占種 2/5-6 内湾・内房 珪藻のスケレトネマ属 2/19 内湾・内房 渦鞭毛藻類のヘテロカプサ属、プロロセントラム属、珪藻のスケレトネマ属など



スケレトネマ属

(2/5-6 富津沖)



ヘテロカプサ属

(2/19 船橋沖)

調査点

連絡先 : 千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所

〒293-0042 富津市小久保 3091 TEL 0439-65-3071 E-mail futtsu-sokuho@pref.chiba.lg.jp